認定看護師教育基準カリキュラム

（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）

分野：がん化学療法看護

平成 24 年 3 月改正
平成 29 年 3 月改正（共通科目のみ）
平成 31 年 4 月改正
令和 3 年 3 月改正（共通科目のみ）

（目的）

1. がん化学療法を受ける患者とその家族の QOL 向上に向けて、熟練する看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。

2. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。

3. がん化学療法看護分野の専門的知識と実践力を基盤として、他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

（期待される能力）

1. がん化学療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。
2. 薬物・レジメンの特性と管理の知識をもとに、投与管理、副作用対策を、安全かつ適正に責任をもって行うことができる。
3. がん化学療法を受ける患者・家族が、主体性を持って治療に向き合うためのセルフケア能力を高められるように、効果的な看護援助を行うことができる。
4. がん化学療法を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
5. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。
6. がん化学療法看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15	小計 105	105（＋305）
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15		
	7. 指導	必修	15		
	8. 特定行為実践	選択	15	小計 305	
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15		
	19. 対人関係	選択	15		
専門基礎科目	1. がん看護学総論	必修	15	小計 60	255
	2. ヘルスアセスメント	必修	15		
	3. 腫瘍学概論	必修	15		
	4. がんの医療サービスと社会的資源	必修	15		
専門科目	1. がん化学療法概論	必修	15		
	2. がん化学療法薬の知識	必修	15		
	3. 主な疾患のがん化学療法	必修	30		
	4. がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント	必修	15		
	5. がん化学療法レジメンの特徴と看護	必修	15		
	6. 薬剤の投与管理とリスクマネジメント	必修	30		
	7. がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	必修	45		
	8. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	必修	15		
	9. 外来/在宅がん化学療法と看護援助	必修	15		
学内演習・臨地実習	総合演習	必修	60	小計 240	240
	臨地実習	必修	180		
			総時間数	600（＋305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
医療安全学： 医療倫理 （必修）	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	**1. 医療倫理の理論** **2. 医療倫理の事例検討**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 （必修）	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	**1. 医療管理の理論** **2. 医療管理の事例検討** **3. 医療安全の法的側面** **4. 医療安全の事例検討・実習**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（医療安全）★ ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 （必修）	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	**1. ケアの質保証の理論** **2. ケアの質保証の事例検討**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
チーム医療論 （特定行為実践） （必修）	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	**1. チーム医療の理論と演習・実習** **2. チーム医療の事例検討** **3. 多職種協働の課題** **※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（チーム医療）★ ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学：医療安全管理」と「チーム医療論（特定行為実践）」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
相談 （特定行為実践） （必修）	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	**1. コンサルテーションの方法**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 （必修）	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	**1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	［授業形態］ 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） ［評価方法］ 筆記試験
指導 （必修）	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 （選択）	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	**特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ** **1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ** **①特定行為関連法規** **②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習** **2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ** **①手順書の位置づけ** **②手順書の作成演習** **③手順書の評価と改良**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
臨床薬理学： 薬物動態 （選択）	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	**1. 薬物動態の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 （選択）	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	**1. 主要薬物の相互作用の理論と演習** **2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習** **※年齢による特性（小児/高齢者）を含む**	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 （選択）	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	**臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ** **1. 臨床解剖学** **2. 臨床病理学** **3. 臨床生理学**	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 （選択）	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	**臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ** **1. 診療のプロセス** **2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習** **3. 各種臨床検査の理論と演習** **心電図/血液検査/尿検査/** **病理検査/微生物学検査/** **生理機能検査/その他の検査** **4. 画像検査の理論と演習** **放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/** **その他の画像検査** **5. 臨床疫学の理論と演習**	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
臨床推論： 医療面接 （選択）	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	**1. 医療面接の理論と演習・実習**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（医療面接） ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 （選択）	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	**身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ** **1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習** **2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習** **全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系**	［授業形態］ 講義、演習及び実習（身体診査手技） ［評価方法］ 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 （選択）	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	**1. 身体診察の年齢による変化** **小児/高齢者** **2. 状況に応じた身体診察** **救急医療/在宅医療**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 （選択）	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	**主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ** **1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論** **循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/**悪性腫瘍/**その他**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 （選択）	15	状況に応じた臨床診断・治療（救急医療、在宅医療等）を理解する。	**状況に応じた**（あらゆる年齢・対象を含む）**臨床診断・治療を学ぶ** **1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習** **2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習**	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 （ゴシック体：特定行為研修 共通科目【学ぶべき事項】に記載の教育内容）	授業形態※1 評価方法※2
医療情報論 （選択）	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 （選択）	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	［授業形態］ 講義及び演習 ［評価方法］ 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1　「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。
「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2　全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとすること。
（厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html ）

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門基礎科目	1. がん看護学総論	がん看護に必要な基礎知識を理解する。	**1）がん看護の専門性、発展と課題** **2）がん医療チームにおける看護の役割** **（1）他職種の専門性の理解** **（2）コミュニケーションの技術** **（3）医療チームにおける看護師の役割** **3）がん患者・家族の特徴（身体・心理・社会的・スピリチュアルな特徴、トータルペイン、がん患者の QOL、がん患者の家族、サバイバーシップ等）** **4）がん患者を理解するために必要な概念（セルフケア理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、障害受容過程、家族看護理論　等）** **5）がん患者とリハビリテーション** **（1）治療に伴うリハビリテーション** **（2）機能維持のためのリハビリテーション** **6）がん患者とヘルスプロモーション**	15
	2. ヘルスアセスメント	がん看護実践に必要なヘルスアセスメントの方法を理解する。	**1）アセスメントプロセス** **2）フィジカルアセスメント** **（呼吸機能、循環機能、脳/神経機能、栄養代謝状態、感覚・運動機能等）** **3）精神・心理的アセスメント** **4）社会的アセスメント** **（成長発達段階と役割等）** **5）家族のアセスメント**	15
	3. 腫瘍学概論	がん看護実践に必要ながんに関する医学的知識を理解する。	**1）がん細胞の特徴** **（1）細胞の構造** **（核、細胞質、細胞膜）** **（2）細胞の発育過程** **（分裂、増殖、アポトーシス、シグナル伝達等）** **（3）がん細胞の特徴** **（発生のメカニズム、増殖、浸潤、転移、ゲノム）** **2）がんの疫学** **（1）統計（罹患率、死亡率）** **（2）がん登録システム** **3）がんの診断** **（1）診断方法** **（画像、腫瘍マーカー、血液検査、病理、遺伝子診断等）** **4）がんの予防と検診** **（1）がんのリスク因子** **（2）がん検診の有効性** **5）がんの集学的治療**	15

※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん性疼痛看護との合同講義が可能な単元

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門基礎科目	4. がんの医療サービスと社会的資源	がん患者の療養の場の特性を理解し、療養生活に必要な支援を提供できる能力を身につける。	**1）がんの医療政策** **（がん対策基本法、がん対策推進基本計画、<u>がん登録等の推進に関する法律、</u>診療報酬等）** **2）がん患者と家族が活用できる社会資源** **（高額療養費制度、在宅酸素療法等）** **3）がんと医療経済** **（治療費、就労問題等）** **4）在宅医療の仕組みと法的枠組み** **5）在宅医療を支える職種間の連携** **6）在宅療養するがん患者と家族を支援する看護師の役割**	15

※ゴシック体表記は、緩和ケアまたはがん性疼痛看護との合同講義が可能な単元

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門科目	1. がん化学療法概論	薬剤の開発プロセスとがん化学療法の適応基準、治療効果の判定方法を理解する。	1) メディカルオンコロジーの領域と専門性 2) がん化学療法の適応基準 3) がん化学療法と EBM 4) 臨床試験と治験コーディネーター 5) がん化学療法薬の開発 6) がん化学療法による治療効果の評価 7) 遺伝子診断と治療薬の選択	15
	2. がん化学療法薬の知識	がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序を理解する。	1) がん化学療法で用いる薬剤の特性と作用機序、副作用管理、取り扱い (1) 殺細胞性抗がん薬 (2) 分子標的療法薬 (3) ホルモン療法薬 (4) 免疫チェックポイント阻害薬 (5) その他	15
	3. 主な疾患のがん化学療法	主な疾患の病態とその治療を理解し、がん化学療法の目的と適応について理解する。	がん化学療法の主な適応疾患（病態、治療方法、薬剤の理解）/標準治療と最新の動向 ・乳がん ・肺がん ・消化器がん ・婦人科がん ・泌尿器がん ・造血器腫瘍	30
	4. がん化学療法を受ける患者・家族のアセスメント	がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況をふまえ、看護援助を効果的に実施するためのアセスメント方法を理解する。	1) がん化学療法を受ける患者・家族の置かれている状況 2) がん化学療法と身体的アセスメント 3) がん化学療法と精神・心理的アセスメント（不安、抑うつ、適応障害、せん妄等） 4) がん化学療法と社会的アセスメント 5) がん化学療法とスピリチュアルなアセスメント 6) 事例検討	15
	5. がん化学療法レジメンの特徴と看護	レジメンの特徴をふまえ、それに応じた看護を理解する。	1) がん化学療法レジメンの特徴と看護（与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法等） 2) がん化学療法の施行前、施行中、施行後の看護のポイント 3) 患者の特性に応じた看護 ・年齢による特性（小児、AYA世代、高齢者） ・特殊な治療・病態（透析治療、フレイル、臨死期等）	15

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門科目	6. 薬剤の投与管理とリスクマネジメント	がん化学療法薬の投与管理と安全な取り扱いを理解する。	1) 投与経路別の管理と事故防止 (1) 経静脈的投与 ・血管のアセスメント、穿刺手技 ・血管アクセス用具（VADs）の種類と特徴・適応・取り扱い上の注意点 ・皮下埋込式ポート (2) 経動脈的投与 (皮下埋込式ポート等) (3) 経口的投与 (4) その他の経路 (皮下、筋肉、腔内注射等) 2) 曝露対策 (1) リスク分類 (2) 曝露対策 ・適切な防護（個人防護用具） ・安全で適切な調製 ・飛散への対応 ・排泄物の取り扱い、廃棄等 3) 救急時の対応・システム整備 (血管外漏出、腫瘍崩壊症候群、過敏症等)	30
	7. がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援	がん化学療法に伴う症状の緩和技術とセルフケア支援を理解する。	1) 副作用症状のアセスメント (症状の発生機序、患者の症状体験、セルフケア能力等のアセスメントを含む) 2) マネジメントのために必要な知識と技術 (1) 薬物療法 支持療法に用いられる主な薬物とその使い方、ガイドラインの活用 (2) 非薬物療法（補完・代替療法を含む） 3) 患者・家族指導とセルフケア支援 (服薬指導、教材開発等) 4) マネジメントの評価方法（QOL 等） 5) 事例検討	45
	8. がん化学療法に伴う患者・家族の意思決定を支える看護援助	がん化学療法を受ける患者・家族の意思決定プロセスについて理解し、場面に応じた看護師の役割を知る。	1) 患者・家族の意思決定プロセス 2) インフォームド・コンセントにおける看護師の役割 3) 意思決定に伴う倫理的問題（遺伝子カウンセリング、妊孕性の温存等を含む） 4) 意思決定に関する要因のアセスメント 5) 意思確認のコミュニケーション 6) 意思決定を支える看護援助 7) 事例検討	15

教　科　目		教科目のねらい	単　元	時間数
専門科目	9.外来/在宅がん化学療法と看護援助	多職種と協働し、患者・家族に切れ目のない看護支援を提供する方法を理解する。	1）外来/在宅におけるがん化学療法の現状（治療環境等、ソーシャルサポートを含む） 2）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者と家族を支援する看護師の役割 3）外来/在宅でがん化学療法を受ける患者の相談（電話相談、専門外来等）とトリアージ 4）外来/在宅がん化学療法における他部門との協働（ソーシャルワーカー、訪問看護師、介護福祉士、ケアマネジャー等） 5）継続看護の体制について（入院から外来 /在宅治療への移行、地域連携拠点病院との連携）	15

	教　科　目	教科目のねらい	単　元	時間数
学内演習	総合演習	演習を通して、認定看護師の実践の基盤となる思考過程や技術を習得する。	課題学習（ケースセミナー等） 1）最新のトピックスに関すること 2）クリティカルシンキングやコミュニケーションに関する演習 3）臨地実習後の事例検討 （学生セミナー、事例カンファレンス） 4）臨地実習事例の看護過程をまとめる （記述） 5）主要概念を用いた看護の展開	60
臨地実習	臨地実習	本課程で学んだ知識・技術を活用し、がん化学療法看護認定看護師に必要な実践・指導・相談の役割を展開する能力を習得する。	1）がん化学療法を安全・確実に実施するためのシステムについて理解する。 2）がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法薬を安全かつ的確に取り扱い、経静脈投与、管理を適切に行う。 ・患者インタビューや聞き取りによって、患者の持つ問題を明確にする。 ・個別的で適切なアセスメントをもとに、その患者と状況にあった看護援助の計画・実施・評価を行う。 ・看護過程を振り返り、的確なフィードバックを自律的に行う。 3）がん化学療法が行なわれている病棟や外来において、がん化学療法中の患者を（3事例程度）受け持ち、看護実践を行い、役割モデルを示す。 4）がん化学療法看護について、役割モデルを示し、看護スタッフに具体的な指導・相談を行う （看護スタッフとのコミュニケーション、看護カンファレンス、相談等） 5）がん化学療法看護に専門的に関わっている看護師（専門看護師、認定看護師等）の活動をとおして、認定看護師の役割を考える。	180